

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
35000	X-21-B-3-350009			【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	選択	1年
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
		2	後期	【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	選択	2年
国際経済史	左近 幸村			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	選択	2年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×

授業目的

本講義ではグローバル化の歴史的起源がこれまでの研究でどのように捉えられているのかを、世界システム論と呼ばれる考え方をもとに説明していく。

長い間、日本の学校で教える「世界史」は国という単位を重視し、諸外国史の集積として「世界史」を描いてきた。しかし近年の歴史研究とりわけ経済史では、國家の枠を超えた視点から世界を一体のものとして捉え、そこから現在のグローバル化の歴史的起源を探ろうとする試みが盛んである。この講義では、そうした近年の研究動向に大きな影響を与えた世界システム論をもとに、ヨーロッパを中心としつつ中世から19世紀までの世界経済史を解説する。合わせて、世界システム論とは対照的な「戦後史学」の解説も行う。

各回毎の授業内容

第1回

【授】イントロダクション：経済史の課題
【前・後】予習復習に4時間

第2回

【授】中世ヨーロッパの封建制
【前・後】予習復習に4時間

第3回

【授】地中海とバルト海
【前・後】予習復習に4時間

第4回

【授】近世の始まり
【前・後】予習復習に4時間

第5回

【授】イタリア戦争の意義
【前・後】予習復習に4時間

第6回

【授】オランダの台頭
【前・後】予習復習に4時間

第7回

【授】17世紀のイギリスをめぐる論争
【前・後】予習復習に4時間

第8回

【授】イギリス商業革命
【前・後】予習復習に4時間

第9回

【授】財政=軍事国家としてのイギリス
【前・後】レポートの準備・予習復習に4時間

第10回

【授】砂糖とタバコ
【前・後】レポートの準備・予習復習に4時間

第11回

【授】アメリカに渡る人々
【前・後】レポートの準備・予習復習に4時間

第12回

【授】産業革命論
【前・後】レポートの準備・予習復習に4時間

第13回

【授】フランス革命がもたらしたもの
【前・後】予習復習に4時間

第14回

【授】移民の世纪
【前・後】予習復習に4時間

第15回

【授】帝国主義から第一次世界大戦へ
【前・後】予習復習に4時間

第16回

【授】期末試験
【前・後】講義全体の復習に6時間

成績評価方法

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	強調・指導力	発表・表現	その他	評価割合(%)
定期試験	40	20					60
小テスト・授業内レポート	30		10				40
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
成果発表（口頭・実技）							
演習							
その他							

期末テスト(60%)、2回の中間テスト(各20%。計40%)により評価する。

全部出席してもテストの成績が悪ければ落ちるので、注意すること。

教科書参考書

教科書：川北稔『世界システム論講義：ヨーロッパと近代世界』ちくま学芸文庫、2016年。

世界史の知識に不安があるものは、参考書として『最新世界史図説 タベストリー』帝国書院の購入を勧める。高校の世界史の副読本だが、基礎的な知識の確認に役立つ。

受講に当たっての留意事項

高校の世界史B程度の知識があることが望ましい。

学習到達目標

グローバル化にどのような歴史的段階があるのか説明できるようになる。

世界システム論の長所と短所を理解し、自分の言葉で批評できるようになる。

戦後日本の歴史学に大きな影響を与えた大塚久雄と川北稔の歴史観の違いとそれぞれの意義を、説明できるようになる。

JABEE

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習